

倉吉市地域公共交通利便増進実施計画（素案）の意見募集の結果について

担当課・係	総務部企画課交通政策係
-------	-------------

- 1 意見募集期間 令和7年12月26日～令和8年1月25日（1か月間）
- 2 閲覧・配布場所 倉吉市役所本庁舎・第2庁舎、倉吉市交流プラザ、倉吉市関金支所、各地区コミュニティセンター、倉吉市ホームページ掲載
- 3 意見及び回答 12件

項目		意見要旨	回答
P8	グリーンスローモビリティのガイド付きのツアー運行について	過去の実証運行の際には、予約制の観光ガイド付きのツアー運行を行っていたが、検討しないのか。どのような付加価値をつけるのかが大切である。	本計画で定める「利便増進事業」への枠組みにとらわれることなく、御意見のあったガイド付き観光ツアーや移動販売などグリーンスローモビリティ（以下「グリスロ」という。）の付加価値及び魅力の向上に繋がる取組は重要であると考えます。実施主体である「打吹つながるモビリティ運営協議会（以下「U-MO 協議会」という。）」と御意見を共有し、グリスロを活用した多様なサービスの展開に向けて引き続き検討を進めて参ります。
P8	うつぶき西ルートの変更について	「みどり町の上まで行けると利用しやすい」との声が沢山あったので、地域住民のしっかり意見を聞いてルート変更反映されており、地域としては嬉しく思う。今後、関係者と協力して地区の高齢者のサロン等の機会を利用して周知広報に取り組んでもらいたい。	御意見のとおり地域住民の皆様へ運行内容や利用方法を丁寧にお伝えしていくことは非常に重要と考えています。今後、U-MO 協議会や地元自治公民館等と密に連携し、高齢者の方への「乗り方教室」の開催など地域の皆様のお力もお借りしながら、分かりやすく、きめ細やかな周知広報に努めて参ります。
P8	うつぶき周遊ルートについて	ルート名に「周遊」と名付けるのであれば、ルート上に鳥取県立美術館を加えるべきである。「同館を発着点として利用したい」と考える観光客が多いはずである。	鳥取県立美術館を経由するルートについては、グリーンスローモビリティの導入検討の段階で、当然に地域関係者等と検討を進めて参りました。しかしながら、当該ルートは、交通量の多い幹線道路の走行や横断が必要となり、交通渋滞による生活交通への支障や追い越し車両による交通事

			故等の発生リスクが懸念されたことから、警察、道路管理者等と慎重に協議した結果、安全・安心を最優先した現在のルート設定に至っており、御理解を賜りますようお願いします。
P15	関金地区乗合タクシーについて	関金地区乗合タクシーの見直し案には、小人、障がい者等への配慮があって良い。ただし、高齢者の中には、歩行に支障があり、乗降ポイントまで出かけることができず、恩恵を受けられないことが多い。タクシーのように自宅から指定地まで移動できるようにできないか。	関金地区乗合タクシーは、御意見をいただいたタクシーのように、自宅付近から目的地まで移動できる「ドア・ツー・ドア」の移動サービスとなっています。歩行に支障のある高齢者の方でも安心して御利用をいただくことができますが、こうした内容を利用者の方に十分に御理解いただく必要があると考えます。今後、運行主体である「関金地区共助交通運営協議会」等と連携し、引き続き、高齢者の皆様にも分かりやすく、丁寧な周知広報に努めて参ります。
P19	市役所駐車場への十分な誘導・案内体制について	「駐車場への一般車の乗入れを抑制」により、打吹小学校前から北向きに進入した車両が駐車できず、バス回転広場内での転回など周辺の混乱が懸念されるので、警備員の配置など市役所駐車場への十分な誘導・案内体制を検討する必要がある。	本計画の「候補事業」として位置付け、今後、地域関係者等と具体的な待合環境の整備の検討を開始する予定としています。御意見のあったバス回転広場への進入・転回や周辺の混乱を未然に防ぐため、検討にあたっては、市役所駐車場への効果的な誘導・案内体制の整備も含め、安全かつ快適な待合環境の確保に向けて慎重に検討を進めて参ります。
P19	バス回転広場内の既存喫煙所の移設について	バス回転広場内に待合スペースを設ける場合、分煙の立場から既存の喫煙所の移設を検討する必要がある。	バス回転広場内への待合スペースの整備については、本計画の「候補事業」として位置付け、今後、地域関係者等と具体的な検討に着手する予定としています。御意見のとおりに、誰もが安心して快適に利用できる環境づくりにおいて、分煙の徹底は、極めて重要な視点であると認識しておりますので、既存の喫煙所についても、待合スペースの配

			置等の検討と合わせ、その取扱いも含めて慎重に検討を進めて参ります。
P19	スクールバスと路線バスの兼ね合いについて	日常生活において、スクールバスの回送運転が無駄に思える。路線バスとの共有的な考えとして、回送バスに一般客の乗車したり、又は路線バスを学校の授業に応じて柔軟に運行するスクールバス化等を検討できないか。スクールバスの運営費用も路線バスの補助事業も税金なので、トータル支出が少なくなるように検討してほしい。	御意見のとおり、一般の方の混乗化などスクールバスの活用は、輸送資源の有効活用や持続可能な公共交通ネットワークの構築において非常に重要な視点であると認識しています。現在、国においても共同化・協業化の検討が進められており、本市としても、他自治体の取組等も踏まえた調査研究を深め、本計画の「候補事業」への位置付けについて、今後、周辺町や交通事業者等と検討を進めて参ります。
P20	北谷・高城地区の乗合タクシーについて	北谷・高城地区の乗合タクシーに関する言及がないが、まだ具体的な検討に至っていないのか。地元の協力体制の構築が関金地区も含め、第一の課題である。	北谷・高城地区の乗合タクシーについては、路線バスの再編も視野に、今年度から利用実態調査やニーズ把握に着手しています。御意見のとおり、持続可能な公共交通体系の構築には、地域住民の皆様の協力体制が不可欠であることから、本計画の「候補事業」として位置付け、将来的な実証運行も視野に入れつつ、今後、地域関係者等と具体的な検討を進める予定としており、引き続き、中山間地域の暮らしを支えられる公共交通の再構築に努めて参ります。
P21	倉吉駅と県立美術館を結ぶ路線バスについて	現在、うつぶきループバスが運行されているが、倉吉駅と県立美術館を直接結ぶルートの方が良いのではないかな。	倉吉駅から鳥取県立美術館を結ぶルートについては、現在、既存の路線バスが運行を担っています。一方、実証運行中の「うつぶきループバス」に対し、観光客や利用者、更にバス運転手からも「倉吉駅発着の循環バスにした方がよいのではないかな」といった御意見をいただいています。しかし、本市における路線バスネットワークは、倉吉駅を中心に周辺4町へ広がる広域路線を軸に形成され、多くの

			<p>バス路線と競合・重複することから、これらの既存バス路線と循環バスの役割分担や調整が極めて重要となります。本計画の「候補事業」として位置付けることで、今後、交通事業者や周辺町との協議を開始し、慎重に検討を進めて参りたいと考えています。</p>
P2I	ループバスの拡大について	<p>循環バス（ループバス）の拡大は良い取組である。現状のコースでは使う人がいないと考えていたが、実際、いつも空気を運んでいるように見受けられる。倉吉駅から西倉吉間が望ましい。外観でループバスであることが分かるように努めてほしい。計画素案で「循環バス」と「ループバス」の2つの単語が出ているので統一してほしい。</p>	<p>循環バスの拡大については、前述の回答のとおり検討を進めて参りたいと考えています。</p> <p>また、御意見をいただいたバス車両の外観等については、前述の循環バスの検討状況を踏まえつつ、適切な段階で、車体ラッピング等の環境整備の在り方についても検討して参ります。</p> <p>なお、計画書内の用語については、御意見を踏まえ、系統名である「うつぶきループバス」を除き、原則として「循環バス」に表記を統一します。</p>
P2I	循環バスの導入に伴うバス路線の再編の方向性について	<p>循環バスの導入に伴うバス路線の再編の方向性が分かりにくく、具体的な説明が必要である。旧市街地では、バス路線と市役所線に分割され、どちらで乗車すれば早く倉吉駅に到着できるのか分からない。路線バス数は増えず、経路が二分され、通過バス数が減少したことで待ち時間が以前より長くなっていると感じる。循環で一方向となれば運行バス数が増えることになり早く移動できる。どこが改善されるのか、もっと分かりやすい説明を追加してほしい。</p>	<p>循環バスの導入に伴う路線バス系統の再編については、前述の回答のとおり、本計画の「候補事業」への位置付けを経て、交通事業者や周辺町と具体的な検討・協議に入る予定としています。そのため、現時点では具体的な改善内容をお示しできる段階にございませんが、御意見の「経路の二分化による待ち時間の増加」といった課題は、利便性向上のために解決すべき重要な事項であると認識しています。今後の検討にあたっては、単に路線バス運行の効率性向上だけでなく、誰もが利用しやすい公共交通ネットワークの再構築を目指して参りたいと考えておりますので、今後の検討状況については、随時、皆様へ公表して参ります。</p>

P27	グリーンスローモビリティの目標設定について	運行内容の見直しにより見直し後の収支率は上昇するが、平日の減便の影響で利用者数が減少する効果設定となっている。しかし、令和7年の右肩上がりの利用実績を踏まえると、見直し後の利用者数も1割程度の増加見込みで効果設定をしてもよいのではないか。	令和7年の利用実績を改めて精査した結果、本計画における利用者数の目標値（効果設定）を御意見のとおり現行から1割程度引き上げる上方修正を行うこととしました。この目標を達成できるよう、U-MO 協議会等と密に連携し、利用促進とサービス向上に取り組んで参ります。
-----	-----------------------	---	--